

## 平成 28 年度 第 2 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 28 年 9 月 1 日 (木)  
開会 13 時 15 分 閉会 14 時 10 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦  
委 員 北村 嘉章  
委 員 野田 美和子  
委 員 蘆邊 千鶴子  
委 員 吉原 慎吾

(事務局関係)

総合政策部長	早松 利男
総合政策部 経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 経営政策課主幹	出口 真澄
教育委員会事務局 教育次長	山本 裕
教育委員会事務局 シニアマネジャー	柿本 欣也
教育委員会事務局 未来の教育課長	廣田 恵子
教育委員会事務局 学校教育課長	波佐尾 雅人
教育委員会事務局 学校教育課担当課長	松村 清子
教育委員会事務局 青少年育成課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 教育庶務課長	吉田 均
教育委員会事務局 教育庶務課参事	池田 美和子

4 討議事項 平成 27 年度の教育大綱アクションプラン総括及び今後の取り組み

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・今日の会議では、昨年度の教育大綱アクションプランの実績を確認していきながら、新学習指導要領やふるさと教育など様々なテーマがあるなか、これからの教育全体についてご意見をいただきたい。
- ・この夏は、リオオリンピックで日本選手が活躍し、小松市の小・中・高校生もそれぞれの

スポーツ大会で大変よく頑張っていた。4年後の東京五輪で頑張りたい、という声も多く聞かれた。スポーツや芸術、本来の学習など、いろいろな場所を与えていくことが大切であり、子ども達には次のグローバル社会のリーダーになってほしいと願っている。

- ・教育委員会と企画した「イングリッシュテーブル」は、各中学校に英語の専門教室をつかってALTを配置し、Only Englishの環境でステップアップが図れるのではないかと思う。小・中・高・大学と一貫した英語教育ができるようなまちにしていきたい。
- ・8月30日には、国際宇宙ステーション（ISS）に滞在する大西宇宙飛行士との交信イベントがサイエンスヒルズで実現した。理科科学のほか、英語やふるさと教育など様々な分野で子ども達にいろんな場を提供していくことを、総合教育会議の大きなテーマとして臨んでいきたい。

#### ○討議事項

平成27年度の教育大綱アクションプラン総括及び今後の取り組み

〈事務局：山本教育次長〉【資料1】により説明

〈議長：和田市長〉続いて、教育長から総括をお願いしたい。

〈石黒教育長〉・いろいろ突発的なものがあるなか、皆様のお陰をもって無事対応できた。

- ・学力向上は本市の喫緊の課題である。イングリッシュテーブル（ETルーム）は、受信と発信のバランスを保ち、英語4技能を統合的に定着させていくことを大きな目的としており、能力を十分に発揮していきたい。
- ・アクティブラーニングの中身は、探求的な学習を行うということである。コンピューターを活用したプログラミング教育が言われているが、やはりハードの部分が欠かせない課題であり、市長には格別のご支援をお願いしたい。
- ・また、学習内容を明確にしていくことは我々がやるべきことの一つであり、そのためには、目標と手立て、タスクの内容を明確にしていくことが大事だと思っている。
- ・学習指導要領が平成32年から小・中・高と改訂され、平成30年度から道徳の教科化が行われる。学校だけでなく地域の中でも道徳を活かせるような、子ども達の実感できるような場面を設定していきたいので、地域での学習機会の創出にもご支援いただきたい。

〈議長〉それでは、皆さんからのご意見、ご質問等をいただきたい。

〈吉原委員〉総括表は、これまで何をしてきたのか、これから何を目指していこうとしているのかが、明快に示されている。教育委員としてこれからいろいろと提言させていただく上で、非常に有益な内容になっていると思う。

〈野田委員〉英検など、今まで取り組んできた成果が表れていると感じた。今後の課題もしっかりと書かれているので、その克服に向けて取り組んでほしい。

〈蘆邊委員〉・特に印象に残ったのは理科教育の推進であり、サイエンスヒルズの活用がとても充実したものになっていると感じた。これからもさらに充実するような企画を考え、絶え間ない活動をしていただきたい。

- ・もし私たちの時代にETルームがあったら、英語をもっと柔軟に受け入れられていたのではないかと思う。時遅しとならないよう、ぜひ進めていただきたい。

〈北村委員〉・具体的な施策や新たな戦略をお聞きでき、大変良かった。教育委員会内の各課長は、目標値を高く持ち、とても頑張っていると感じている。

- ・国では学習指導要領の改訂が進んでいるが、先を見て、先行してやらなければならない。英語や道徳において、学校全体でどういう方向性でやるのか、明確なものを示していくべきであると思う。
- ・市立高校について、優秀な生徒を集めるためにはPRが大事であり、英語の新たな事業や芸術コースなど、目に見えるアクションと成果を出していかななくてはならない。
- ・小・中・高・大学、そして将来、社会の役に立つ人材へとステップアップできる事業を市として進めていただきたい。

〈議長〉委員の意見を受けて、教育長から何かないか。

〈石黒教育長〉認めていただけたことは大変うれしく、これらは皆さんと共に進めてきた成果だと思っている。ただ、課題について何点かご指摘もいただいた。市立高校や各小・中学校の特色のほか、それらのつながりをどうしていくのか明確にしていくことが、今後の成果につながっていくと思う。目標を高く持ち、力強く進んでいきたい。

〈議長〉・教育機関を経て、大人になって社会に出て、日本や地球に貢献できる素晴らしい人材をいかに育てていくか、その人達が家庭や子どもを持ったときに、どういう風に子どもを育てていくか、広い意味でもキャリア教育が必要である。もっと息の長い、小・中・高・大学連携をやらなければならないと考えている。

- ・大学受験の方法も近い将来変わるが、高校も中学も小学校も、それをクリアできるような教育のやり方を意識しないといけない。
- ・1年半後に開学予定の公立小松大学には優秀な人材が集まってくる。南加賀全体の小・中・高校に波及効果が広がる大学になると思っている。
- ・大学の受験方法の変更、学習指導要領の改訂、道徳が必須科目になるなど、状況の変化を踏まえ、今年度だけでなく、来年、再来年に向けたいろいろな提案をいただきたい。

〈北村委員〉・小学校で学んだことが中学校で活かせる、小松の中学生は高校生になったらグンと伸びる、大学でもグンと伸び、ひいては社会に出てさらに伸びる、というよ

うなひとづくりをしていかなければならない。

- ・入試制度について、英語も英検だけではなくいろいろなテストで評価される。特に話すことが重要となってくるので、そういうカリキュラムを組むためには今回の事業は大変良いと思う。
- ・市立高校の英検の目標は昨年度で達成されている。目標値を見直すとともに、英検だけで良いのか、先取りして中身を変えていくことも大事。

〈吉原委員〉小松市単独のものさしが対外的に通用するのかを、よく検証しなければいけない。世間一般から見て良いのか悪いのか、何をやっていけば体的に通用する人材を育てていけるのか、その辺りの妥当性をしっかり固めていく必要がある。

〈議長〉転校・転勤してきた人は、今と前の学校の教育内容や雰囲気と比較できる。子どもにも親にも、小松に引っ越してきて転校してきて良かったと思ってもらえるよう、他から来た人は小松の教育システムや地域の人材育成のシステムについてどう思うか、といった意見を聞き、データを集めていくことが大事。例えば、企業においても自分の道だけに固まっているとあまり成長しない。常に他社より優れたものを作る、地球上で一番良いものを作る、良いサービスをするといった目標を掲げ、他の情報を集めることにより、革新が起きるのだと思う。

〈石黒教育長〉教育水準を揃えることについて、日本全国の公立小・中学校で進めており、その象徴が学習指導要領である。教育の詳細、達成目標が書かれているが、目標に近づくことよりも目標を超えること、小松市独自のものを積み上げていくという方向性が大事だと思っている。石川県は学力レベルが高く、その中で切磋琢磨していくことも重要である。

- ・教育問題は、子ども独自のものと、社会が及ぼす影響からくるものがあり、非常に多様化している。学校だけでなく社会全体で教育をサポートしていくという動きが大事になってきている。

〈議長〉大西宇宙飛行士は、「人類は遠くに行こうと目指してきた。それで、いろいろなものが進歩してきた」とおっしゃっていた。遠くを目指すために、船を改良したり、羅針盤を作ったり、天文学を勉強したりしてきた。大西氏は「常に遠くを見なさい」と子ども達に伝えていた。そこに、教育というか、人類が発展していく基本があるような気がした。

〈蘆邊委員〉地域で子ども達を育てていくことについて、一時期よりは地域の皆さんが参画している姿勢が見え始めてきたと思う。これを大切にしていかなければならない。子ども達が関わり合う機会を各地域で増やし、子ども達が持っている素性や特長を伸ばしながら、続けていってほしい。

〈議長〉・学童クラブでは土曜教室、老人会では公民館を中心にはつらつ協議会を立ち上げた。地域みんなで教え合おうと取り組んでいる。

・そのほか意見はないか。総合政策部長から何かないか。

〈事務局：総合政策部長〉 特に関心が高いのは、学力向上についてである。北村委員がおっしゃったとおり、点数主義というより次のステップで伸びるというのが教育の本質であると思う。高い目標に向けて頑張っていたきたい。公立4年制大学のレベルアップ、ひいてはこの地域のレベルアップにもつながることを期待している。

〈野田委員〉・県外から小松に来て3年が経った頃に小松を愛する気持ちが宿っていった。地域の祭りやお寺教室など、親子で行事に参加することによって、たくさんの人と仲良くなることができた。知り合いには東京や海外に転勤していく人もいるが、皆さんが「また小松に戻ってきたい」と言っている。住めば小松の良さが分かってもらえし、戻ってきたいと思ってくれてうれしい。

・地域に貢献できる人を育てるということに関しても、小松は伝統文化が充実したまちであり、素晴らしい地域資源もあって恵まれている。今は小松に住んでいることに、とても誇りを持っている。

〈北村委員〉・最近、時間があるときに県外の神社を回っている。ほかを見ると、小松は大変良いところだと感じる。交通の便、自然、山もあり海もある。歴史や文化もあって、食事もおいしい。学校の施設も良くなったし、市立高校の芸術コースのような学校はほかにはない。それを自覚して、もう少し仕掛けを考えていけば、もっと良くなる。

〈蘆邊委員〉 以前テレビで放送していた私立幼稚園では、朝から帰るまで英語しか使わない、ということを実践していた。最初はちんぷんかんぷんだった子ども達も、1~2か月の間でめきめきと上達して英語が身に付いていった、ということが実証されている。小学校に留まらず、幼稚園でもやっていったらどうかと思っている。

〈議長〉 そのほか意見はないか。委員の皆さんには、今後も教育委員会に対して叱咤激励をお願いしたい。

○閉 会